

ティーチング・ポートフォリオ(教育業績ファイル)

教員氏名	入江 一雄
主な担当科目	実技個人レッスン[ピアノⅠ②,ピアノⅠ③,ピアノ実技Ⅰ①,ピアノ実技Ⅰ②,ピアノ実技Ⅱ④,ピアノ],実技グループレッスン[ピアノⅡ①,ピアノⅡ②,ピアノⅡ③]
シラバス	次ページをご参照ください
2022年の教育目標・授業に臨む姿勢	芸術や音楽を「教える」とはということなのか、自分の中での明確な答えは見つかっていない。恐らく、それは見つかることがなく常に追い続けるものなのだろう。しかし、「普遍的に守らなければいけないこと・それら以外は自由なものである」という信念のもと学生に接している。主科・副科を問わず、私の信念を伝え学生への思考を促すことが「教える」という行為につながるのでは…と信じて日々接している。
2022年の教育に関する自己評価	「言われたことはやるが想像性がない」というタイプの学生には、私の指導スタンスは受け入れられないものかもしれない。しかし、生徒ひとりひとりが自分で考え試行錯誤したり、疑問に感じたことを私の指摘前に投げかけてくるが増えた。特効薬のようなものが効かない分野であるため長期的な展望が必要となるが、学生の考えるさまが少しでも垣間見れたことは嬉しく思える。
2022年のFD活動に関する自己評価	他の項目も同様だが、大学のFD活動がどういうものかを知る1年となった。いろいろな先生方の講話などがはじめは理解不能だったが、ほんの少し理解できた気がする。ピアノという楽器では良くも悪くも自己完結できてしまうので、多角的な面から自身の教育・研究の成長に繋がられるよう、次年度以降も意識を明確に持って臨みたい。
授業改善のために取り入れた研修内容	ソルフェージュ学内組織FD研修会で、森篤史専任講師の講話が特に印象に残っている。日頃から楽譜閲覧用にiPad Proを使用しているが、まだ知らなかった様々な活用術が説明された。私同様に楽譜閲覧に使用する学生もいるため、レッスン・授業でより良い有効活用を促すよう努めた。

科目名－クラス名

ピアノⅠ②

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
実技・実習	2～	通年	6	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノミュージッククリエイターコース、ピアノ指導者コース、ピアノ音楽コースの主科実技（個人レッスン週1回60分）科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。いわゆるヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて学修する。具体的には、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。学修した主要な作品については、レパートリーとしてしっかりと身に付けていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	音楽的表現に基づく腕・上体の使い方
第3回	スケール試験に向けて（タッチ強化トレーニング方法）
第4回	スケール試験に向けて（敏捷性トレーニング方法）
第5回	スケール試験に向けて（技術的問題点を挙げる）
第6回	スケール試験に向けて（技術的問題点等の解決方法を探る）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（バロック時代における演奏スタイルを学ぶ）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（近現代作品における演奏スタイルを学ぶ）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	個々の学生に応じた課題について
第17回	個性ある演奏表現について学ぶ
第18回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）
第19回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル等を修得する）
第25回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
第27回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を修得する）
第29回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲についてはその都度掲示発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノⅠ②

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	2～	通年	6	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノコースの主科実技（個人レッスン週1回60分）科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。所謂ヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて学修する。具体的には、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。学修した主要な作品については、レパートリーとしてしっかりと身に付けていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	音楽的表現に基づく腕・上体の使い方
第3回	スケール試験に向けて（タッチ強化トレーニング方法）
第4回	スケール試験に向けて（敏捷性トレーニング方法）
第5回	スケール試験に向けて（技術的問題点を挙げる）
第6回	スケール試験に向けて（技術的問題点等の解決方法を探る）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（バロック時代における演奏スタイルを学ぶ）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（近現代作品における演奏スタイルを学ぶ）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	個々の学生に応じた課題について
第17回	個性ある演奏表現について学ぶ
第18回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）
第19回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル等を修得する）
第25回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
第27回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を修得する）
第29回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	卒業試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲についてはその都度掲示発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノⅠ②

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
実技・実習	2～	通年	6	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
				100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノミュージッククリエイターコース、ピアノ指導者コース、ピアノ音楽コースの主科実技（個人レッスン週1回60分）科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。いわゆるヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて学修する。具体的には、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。学修した主要な作品については、レパートリーとしてしっかりと身に付けていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	音楽的表現に基づく腕・上体の使い方
第3回	スケール試験に向けて（タッチ強化トレーニング方法）
第4回	スケール試験に向けて（敏捷性トレーニング方法）
第5回	スケール試験に向けて（技術的問題点を挙げる）
第6回	スケール試験に向けて（技術的問題点等の解決方法を探る）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（バロック時代における演奏スタイルを学ぶ）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（近現代作品における演奏スタイルを学ぶ）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	個々の学生に応じた課題について
第17回	個性ある演奏表現について学ぶ
第18回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）
第19回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル等を修得する）
第25回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
第27回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を修得する）
第29回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲についてはその都度掲示発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノⅠ③

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出			成果発表
実技・実習	3～	通年	6	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノミュージッククリエイターコース、ピアノ指導者コースの主科実技（個人レッスン週1回60分）科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。いわゆるヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて学修する。具体的には、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。学修した主要な作品については、レパートリーとしてしっかりと身に付けていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	民族主義的な作曲家作品
第3回	民族的主義的な作曲家作品等
第4回	20世紀の作曲家作品
第5回	20世紀の作曲家作品等
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析を学ぶ）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル等を修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現等を修得する）
第16回	個々における技術的問題点について
第17回	邦人作曲家作品について
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル等を修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現等を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノⅠ③

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				定期試験					
実技・実習	3～	通年	6	評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト
				評価割合	100	0	0	0	0

教育到達目標と概要

ピアノミュージッククリエイターコース、ピアノ指導者コースの主科実技（個人レッスン週1回60分）科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏という行為を通して理解を深めていくことを目標としている。いわゆるヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて学修する。具体的には、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品を概観する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。学修した主要な作品については、レパートリーとしてしっかりと身に付けていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	民族主義的な作曲家作品
第3回	民族的主義的な作曲家作品等
第4回	20世紀の作曲家作品
第5回	20世紀の作曲家作品等
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析を学ぶ）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル等を修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現等を修得する）
第16回	個々における技術的問題点について
第17回	邦人作曲家作品について
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者について理解する）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイル等を修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現等を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノ実技Ⅰ①

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	1～	通年	9	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノ演奏家コースの主科実技科目（個人レッスン週1回90分）である。演奏家として活躍していく上で必要なレパートリー（協奏曲を含む）を中心に学修する。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについても研究し、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品までを学ぶ。なお、4年次前期実技試験課題は協奏曲である。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	個々の課題における改善方法
第3回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第4回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第5回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第17回	個々の課題における改善方法
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノ実技Ⅰ①

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	1～	通年	9	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノ演奏家コースの主科実技科目（個人レッスン週1回90分）である。演奏家として活躍していく上で必要なレパートリー（協奏曲を含む）を中心に学修する。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについても研究し、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品までを学ぶ。なお、4年次前期実技試験課題は協奏曲である。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	個々の課題における改善方法
第3回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第4回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第5回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第17回	個々の課題における改善方法
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノ実技Ⅰ②

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	2～	通年	9	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノ演奏家Ⅰコースの主科実技科目（個人レッスン週1回90分）である。演奏家として活躍していく上で必要なレパートリー（協奏曲を含む）を中心に学修する。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについても研究し、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品までを学ぶ。なお、4年次前期実技試験課題は協奏曲である。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	個々の課題における改善方法
第3回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第4回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第5回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第17回	個々の課題における改善方法
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノ実技Ⅰ②

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	2～	通年	9	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

ピアノ演奏家Ⅰコースの主科実技科目（個人レッスン週1回90分）である。演奏家として活躍していく上で必要なレパートリー（協奏曲を含む）を中心に学修する。個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについても研究し、4年次までにバロック時代の音楽から、古典派、ロマン派を経て近現代の作品までを学ぶ。なお、4年次前期実技試験課題は協奏曲である。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	個々の課題における改善方法
第3回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第4回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第5回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第6回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第7回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第8回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第9回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第10回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第11回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第12回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第13回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第14回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第15回	前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
第16回	オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
第17回	個々の課題における改善方法
第18回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
第19回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
第20回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
第21回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
第22回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
第23回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
第24回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
第25回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
第26回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
第27回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
第28回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
第29回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
第30回	後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲については、その都度発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。大学が開催する演奏会・招聘教授による公開講座・レッスン等を積極的に受講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノ実技Ⅱ④

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	4～	通年	6	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目はピアノ演奏家コースの中でも、特に高い専門性を求める学生に開講された実技レッスンの選択科目である。演奏会出演や、コンクール参加等の実践的経験を重ねつつ、演奏家たるに必要な肉体的、精神的能力の向上を図る。ピアノ実技Ⅰ①②③④に準ずるものであり、その科目に連動しつつ更に研究を深めていくことを目的としている。選択科目ではあるがピアノ実技Ⅰ①②③④履修者は履修することが望ましい。普段の練習、訓練が重要で相当の時間を費やすことが必要である。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
- 第2回 個々の課題における改善方法
- 第3回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
- 第4回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
- 第5回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
- 第6回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
- 第7回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
- 第8回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
- 第9回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
- 第10回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
- 第11回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
- 第12回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
- 第13回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
- 第14回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
- 第15回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
- 第16回 オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
- 第17回 個々の課題における改善方法
- 第18回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
- 第19回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
- 第20回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
- 第21回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
- 第22回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
- 第23回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
- 第24回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
- 第25回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
- 第26回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
- 第27回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
- 第28回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
- 第29回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
- 第30回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

ピアノ実技Ⅰ①②③④の履修が条件になり、この科目の単独履修は認められない。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノ実技Ⅱ④

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	定期試験				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	4～	通年	6	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

この科目はピアノ演奏家コースの中でも、特に高い専門性を求める学生に開講された実技レッスンの選択科目である。演奏会出演や、コンクール参加等の実践的経験を重ねつつ、演奏家たるに必要な肉体的、精神的能力の向上を図る。ピアノ実技Ⅰ①②③④に準ずるものであり、その科目に連動しつつ更に研究を深めていくことを目的としている。選択科目ではあるがピアノ実技Ⅰ①②③④履修者は履修することが望ましい。普段の練習、訓練が重要で相当の時間を費やすことが必要である。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な様々な要素を磨き、演奏家として必要な表現力を養っていく。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
- 第2回 個々の課題における改善方法
- 第3回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
- 第4回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
- 第5回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
- 第6回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
- 第7回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
- 第8回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
- 第9回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
- 第10回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
- 第11回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
- 第12回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
- 第13回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
- 第14回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
- 第15回 前期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
- 第16回 オリエンテーション（レッスン計画、目的、勉強方法等）
- 第17回 個々の課題における改善方法
- 第18回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
- 第19回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
- 第20回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
- 第21回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（作品分析をする）
- 第22回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
- 第23回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
- 第24回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
- 第25回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
- 第26回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
- 第27回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
- 第28回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を生かす）
- 第29回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
- 第30回 後期実技試験課題曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

ピアノ実技Ⅰ①②③④の履修が条件になり、この科目の単独履修は認められない。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分に練習し、レッスン受講の準備をすること

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノ

曜日時限

担当教員

実技

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	1～	通年	0	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽科研究生の主科実技（実技レッスン）科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏を通して理解を深めていくことを目標としている。ヨーロッパ音楽を起点とし、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等について学習する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。修了後のキャリア形成を視野に入れて、多角的な学修を蓄積する。

授業展開と内容

- 第1回 前期オリエンテーション（レッスン計画、目的勉強方法等）
- 第2回 個々の課題における改善方法
- 第3回 前期実技試験曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
- 第4回 前期実技試験曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
- 第5回 前期実技試験曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
- 第6回 前期実技試験曲を中心としたレッスン（楽曲内容を学ぶ）
- 第7回 前期実技試験曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
- 第8回 前期実技試験曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
- 第9回 前期実技試験曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
- 第10回 前期実技試験曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
- 第11回 前期実技試験曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
- 第12回 前期実技試験曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
- 第13回 前期実技試験曲を中心としたレッスン（演奏解釈などを活かす）
- 第14回 前期実技試験曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
- 第15回 前期実技試験曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
- 第16回 後期オリエンテーション（レッスン計画、目的勉強方法等）
- 第17回 個々の課題における改善方法
- 第18回 修了実技試験曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
- 第19回 修了実技試験曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
- 第20回 修了実技試験曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
- 第21回 修了実技試験曲を中心としたレッスン（楽曲内容を学ぶ）
- 第22回 修了実技試験曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
- 第23回 修了実技試験曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
- 第24回 修了実技試験曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
- 第25回 修了実技試験曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
- 第26回 修了実技試験曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
- 第27回 修了実技試験曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
- 第28回 修了実技試験曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
- 第29回 修了実技試験曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
- 第30回 修了実技試験曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲についてはその都度掲示発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。鍵盤楽器部会の指定する、招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等を積極的に聴講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、充分準備をして臨むこと。

教科書・参考書

適宜資料を配付する。

科目名－クラス名

ピアノ

曜日時限

実技

担当教員

実技担当教員

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法	定期試験				その他の試験	合計
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	1～	通年	0	評価割合	100	0	0	0	0	100

教育到達目標と概要

音楽科研究生の主科実技（実技レッスン）科目である。ピアノ（鍵盤）音楽について、演奏を通して理解を深めていくことを目標としている。ヨーロッパ音楽を起点とし、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景等について学習する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）等について研究し、また和声感、リズム感等演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。修了後のキャリア形成を視野に入れて、多角的な学修を蓄積する。

授業展開と内容

- 第1回 前期オリエンテーション（レッスン計画、目的勉強方法等）
- 第2回 個々の課題における改善方法
- 第3回 前期実技試験曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
- 第4回 前期実技試験曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
- 第5回 前期実技試験曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
- 第6回 前期実技試験曲を中心としたレッスン（楽曲内容を学ぶ）
- 第7回 前期実技試験曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
- 第8回 前期実技試験曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
- 第9回 前期実技試験曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
- 第10回 前期実技試験曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
- 第11回 前期実技試験曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
- 第12回 前期実技試験曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
- 第13回 前期実技試験曲を中心としたレッスン（演奏解釈などを活かす）
- 第14回 前期実技試験曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
- 第15回 前期実技試験曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）
- 第16回 後期オリエンテーション（レッスン計画、目的勉強方法等）
- 第17回 個々の課題における改善方法
- 第18回 修了実技試験曲を中心としたレッスン（作曲者についての理解を深める）
- 第19回 修了実技試験曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を学ぶ）
- 第20回 修了実技試験曲を中心としたレッスン（的確な楽譜の読み取り方を修得する）
- 第21回 修了実技試験曲を中心としたレッスン（楽曲内容を学ぶ）
- 第22回 修了実技試験曲を中心としたレッスン（楽曲内容を理解する）
- 第23回 修了実技試験曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを学ぶ）
- 第24回 修了実技試験曲を中心としたレッスン（演奏スタイルを修得する）
- 第25回 修了実技試験曲を中心としたレッスン（技術的問題点を挙げる）
- 第26回 修了実技試験曲を中心としたレッスン（技術的問題点の解決方法を探る）
- 第27回 修了実技試験曲を中心としたレッスン（演奏解釈を学ぶ）
- 第28回 修了実技試験曲を中心としたレッスン（演奏解釈等を活かす）
- 第29回 修了実技試験曲を中心としたレッスン（音楽表現を学ぶ）
- 第30回 修了実技試験曲を中心としたレッスン（音楽表現を修得する）

履修上の注意

実技試験課題曲についてはその都度掲示発表する。前期1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。鍵盤楽器部会の指定する、招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等を積極的に聴講すること。

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

レッスンを受講する際には、充分準備をして臨むこと。

教科書・参考書

適宜資料を配付する。

科目名－クラス名

ピアノⅡ①

13:45～14:30

曜日時限

木 1時限

担当教員

入江 一雄

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	1～	通年	2	80	0	0	0	20	100

教育到達目標と概要

所謂ヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて、グループレッスンにより学修する。また、ピアノと他の楽器、声楽との関わりについても研究する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、楽器構造及び機能の説明）
第2回	テクニック修得に基づく基礎知識（スケール奏法の基本）
第3回	テクニック修得に基づく基礎知識（姿勢・トレーニング方法）
第4回	テクニック修得に基づく基礎知識（練習方法、練習計画）
第5回	練習曲における作品内容理解（指使い等）基礎編
第6回	練習曲における作品内容理解（拍子、調性、和声）応用編
第7回	練習曲における楽曲分析と演奏表現（フレーズ・デュナーミク）基礎編
第8回	練習曲における楽曲分析と演奏表現（アゴーギク）応用編
第9回	練習曲（古典派の演奏スタイルを学修する）
第10回	ポリフォニー音楽（Bach:インヴェンション、シンフォニア、平均律等。バロックの演奏スタイル等を学修する）基礎編
第11回	ポリフォニー音楽（Bach:インヴェンション、シンフォニア、平均律等。バロックの演奏スタイル等を学修する）応用編
第12回	ポリフォニー音楽（声部ごとのアンサンブル）
第13回	ポリフォニー音楽（楽曲分析）
第14回	クラス内発表の準備
第15回	総括（クラス内発表）及び後期学修曲の計画
第16回	舞曲（さまざまな舞曲-3拍子 ワルツ、メヌエット、サラバンド等）基礎編
第17回	舞曲（さまざまな舞曲-3拍子 ワルツ、メヌエット、サラバンド等）実践編
第18回	舞曲（さまざまな舞曲-2拍子、4拍子 ガヴォット、シチリアーノ等）基礎編
第19回	舞曲（さまざまな舞曲-2拍子、4拍子 ガヴォット、シチリアーノ等）実践編
第20回	様々なアンサンブル（連弾・2台ピアノ等）基礎
第21回	様々なアンサンブル（連弾・2台ピアノ等）練習方法
第22回	様々なアンサンブル（連弾・2台ピアノ等）演奏発表
第23回	様々なアンサンブル（各自の専攻楽器とのアンサンブル含む）基礎
第24回	様々なアンサンブル（各自の専攻楽器とのアンサンブル含む）練習方法
第25回	様々なアンサンブル（各自の専攻楽器とのアンサンブル含む）演奏発表
第26回	後期試験曲を中心としたグループレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
第27回	後期試験曲を中心としたグループレッスン（演奏解釈についてを学修する）基礎
第28回	後期試験曲を中心としたグループレッスン（演奏解釈についてを学修する）応用・発展
第29回	後期試験曲を中心としたグループレッスン（演奏表現を学修する）
第30回	総括・試奏会

履修上の注意

鍵盤楽器部会の指定する招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等を積極的に聴講すること

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な練習と準備をしてレッスンに臨むこと。レッスンノートの記入を徹底し、やむを得ず欠席した場合はグループ内でレッスン内容の情報共有等を行うこと。

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノⅡ②

9:00～9:45

曜日時限

木 1時限

担当教員

入江 一雄

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	2～	通年	2	80	0	0	0	20	100

教育到達目標と概要

ヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて、グループレッスンにより学修する。また、ピアノと他の楽器、声楽との関わりについても研究する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	スケール・アルペジオを用いたテクニック習得
第3回	スケール・アルペジオを用いた日々のトレーニング方法
第4回	4声ハーモニー・2声ポリフォニー演奏を通じた学修 基礎
第5回	4声ハーモニー・2声ポリフォニー演奏を通じた学修 応用
第6回	ピアノ伴奏（ピアノ2台を用いた伴奏の学修 基礎）
第7回	ピアノ伴奏（ピアノ2台を用いた伴奏の学修 発展）
第8回	ピアノ伴奏（各自の専攻楽器や歌曲の伴奏 基礎）
第9回	ピアノ伴奏（各自の専攻楽器や歌曲の伴奏 発展）
第10回	練習曲における作品内容理解（指使い等）基礎
第11回	練習曲における作品内容理解（拍子、調性、和声）応用
第12回	練習曲における楽曲分析と演奏表現（フレーズ・デュナーミク）基礎
第13回	練習曲における楽曲分析と演奏表現（アゴーギク）応用
第14回	練習曲における演奏スタイルの学修
第15回	前期授業内小テスト / 後期学修の計画
第16回	楽曲の和声分析、和声進行の理解
第17回	楽曲の和声分析、和声進行の理解
第18回	連弾・2台ピアノ 基礎
第19回	連弾・2台ピアノ 練習方法
第20回	連弾・2台ピアノ 演奏と意見交換
第21回	後期試験曲の練習計画
第22回	後期試験曲のアナリーゼ
第23回	後期試験曲のグループレッスン
第24回	様々なアンサンブル（各自の専攻楽器とのアンサンブル、連弾・2台ピアノの続きを含む）基礎
第25回	様々なアンサンブル（各自の専攻楽器とのアンサンブル、連弾・2台ピアノの続きを含む）練習方法
第26回	様々なアンサンブル（各自の専攻楽器とのアンサンブル、連弾・2台ピアノの続きを含む）演奏と意見交換
第27回	後期試験曲を中心としたグループレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
第28回	後期試験曲を中心としたグループレッスン（演奏表現）基礎
第29回	後期試験曲を中心としたグループレッスン（演奏表現）発展
第30回	後期試験曲を中心としたグループレッスン / 年間学修の総括

履修上の注意

鍵盤楽器部会の指定する招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等を積極的に聴講すること

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な練習と準備をしてレッスンに望むこと。レッスンノートの記入を徹底し、やむを得ず欠席した場合はグループ内でレッスン内容の情報共有等を行うこと。

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノⅡ②

9:45～10:30

曜日時限

火 1時限

担当教員

入江 一雄

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	2～	通年	2	80	0	0	0	20	100

教育到達目標と概要

ヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて、グループレッスンにより学修する。また、ピアノと他の楽器、声楽との関わりについても研究する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	スケール・アルペジオを用いたテクニック習得
第3回	スケール・アルペジオを用いた日々のトレーニング方法
第4回	4声ハーモニー・2声ポリフォニー演奏を通じた学修 基礎
第5回	4声ハーモニー・2声ポリフォニー演奏を通じた学修 応用
第6回	ピアノ伴奏（ピアノ2台を用いた伴奏の学修 基礎）
第7回	ピアノ伴奏（ピアノ2台を用いた伴奏の学修 発展）
第8回	ピアノ伴奏（各自の専攻楽器や歌曲の伴奏 基礎）
第9回	ピアノ伴奏（各自の専攻楽器や歌曲の伴奏 発展）
第10回	練習曲における作品内容理解（指使い等）基礎
第11回	練習曲における作品内容理解（拍子、調性、和声）応用
第12回	練習曲における楽曲分析と演奏表現（フレーズ・デュナーミク）基礎
第13回	練習曲における楽曲分析と演奏表現（アゴーギク）応用
第14回	練習曲における演奏スタイルの学修
第15回	前期授業内小テスト / 後期学修の計画
第16回	楽曲の和声分析、和声進行の理解
第17回	楽曲の和声分析、和声進行の理解
第18回	連弾・2台ピアノ 基礎
第19回	連弾・2台ピアノ 練習方法
第20回	連弾・2台ピアノ 演奏と意見交換
第21回	後期試験曲の練習計画
第22回	後期試験曲のアナリーゼ
第23回	後期試験曲のグループレッスン
第24回	様々なアンサンブル（各自の専攻楽器とのアンサンブル、連弾・2台ピアノの続きを含む）基礎
第25回	様々なアンサンブル（各自の専攻楽器とのアンサンブル、連弾・2台ピアノの続きを含む）練習方法
第26回	様々なアンサンブル（各自の専攻楽器とのアンサンブル、連弾・2台ピアノの続きを含む）演奏と意見交換
第27回	後期試験曲を中心としたグループレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
第28回	後期試験曲を中心としたグループレッスン（演奏表現）基礎
第29回	後期試験曲を中心としたグループレッスン（演奏表現）発展
第30回	後期試験曲を中心としたグループレッスン / 年間学修の総括

履修上の注意

鍵盤楽器部会の指定する招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等を積極的に聴講すること

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な練習と準備をしてレッスンに望むこと。レッスンノートの記入を徹底し、やむを得ず欠席した場合はグループ内でレッスン内容の情報共有等を行うこと。

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノⅡ②

9:45～10:30

曜日時限

木 1時限

担当教員

入江 一雄

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計
				筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表	授業内小テスト	
実技・実習	2～	通年	2	80	0	0	0	20	100

教育到達目標と概要

ヨーロッパ音楽を中心に、その歴史的な流れに沿って様々な作品に触れ、個々の作品の音楽的内容、それらの作品が成立した背景などについて、グループレッスンにより学修する。また、ピアノと他の楽器、声楽との関わりについても研究する。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。

授業展開と内容

第1回	オリエンテーション（年間レッスン計画、目的、勉強方法等）
第2回	スケール・アルペジオを用いたテクニック習得
第3回	スケール・アルペジオを用いた日々のトレーニング方法
第4回	4声ハーモニー・2声ポリフォニー演奏を通じた学修 基礎
第5回	4声ハーモニー・2声ポリフォニー演奏を通じた学修 応用
第6回	ピアノ伴奏（ピアノ2台を用いた伴奏の学修 基礎）
第7回	ピアノ伴奏（ピアノ2台を用いた伴奏の学修 発展）
第8回	ピアノ伴奏（各自の専攻楽器や歌曲の伴奏 基礎）
第9回	ピアノ伴奏（各自の専攻楽器や歌曲の伴奏 発展）
第10回	練習曲における作品内容理解（指使い等）基礎
第11回	練習曲における作品内容理解（拍子、調性、和声）応用
第12回	練習曲における楽曲分析と演奏表現（フレーズ・デュナーミク）基礎
第13回	練習曲における楽曲分析と演奏表現（アゴーギク）応用
第14回	練習曲における演奏スタイルの学修
第15回	前期授業内小テスト / 後期学修の計画
第16回	楽曲の和声分析、和声進行の理解
第17回	楽曲の和声分析、和声進行の理解
第18回	連弾・2台ピアノ 基礎
第19回	連弾・2台ピアノ 練習方法
第20回	連弾・2台ピアノ 演奏と意見交換
第21回	後期試験曲の練習計画
第22回	後期試験曲のアナリーゼ
第23回	後期試験曲のグループレッスン
第24回	様々なアンサンブル（各自の専攻楽器とのアンサンブル、連弾・2台ピアノの続きを含む）基礎
第25回	様々なアンサンブル（各自の専攻楽器とのアンサンブル、連弾・2台ピアノの続きを含む）練習方法
第26回	様々なアンサンブル（各自の専攻楽器とのアンサンブル、連弾・2台ピアノの続きを含む）演奏と意見交換
第27回	後期試験曲を中心としたグループレッスン（技術的問題点等の解決方法を探る）
第28回	後期試験曲を中心としたグループレッスン（演奏表現）基礎
第29回	後期試験曲を中心としたグループレッスン（演奏表現）発展
第30回	後期試験曲を中心としたグループレッスン / 年間学修の総括

履修上の注意

鍵盤楽器部会の指定する招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等を積極的に聴講すること

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な練習と準備をしてレッスンに望むこと。レッスンノートの記入を徹底し、やむを得ず欠席した場合はグループ内でレッスン内容の情報共有等を行うこと。

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

科目名－クラス名

ピアノⅡ③

10:40～11:25

曜日時限

火 2時限

担当教員

入江 一雄

授業形態	開講年次	開講期	単位数	評価方法				その他の試験	合計	
				評価種別	筆記・実技	課題提出	作品提出	成果発表		授業内小テスト
実技・実習	3～	通年	2	評価種別	80	0	0	0	20	100

教育到達目標と概要

2年間の勉強を基に、興味ある時代や作曲家の作品に取り組み、学びを深める。楽曲理解に必要な知識を得る。高度な技術を習得して表現の幅を広げる。ソロだけでなく連弾などのアンサンブルに取り組む。

学修成果

それぞれの作品に即した様々な演奏法、多彩な音色（タッチ）について研究し、また和声感、リズム感など演奏表現に必要な多くの要素を磨き、表現力を養っていく。

授業展開と内容

- 第1回 オリエンテーション：2年間の学修を振り返り、年間テーマと課題を決めレッスンを計画する
- 第2回 基本テクニックの確認（基礎）：スケール・アルペジオなど
- 第3回 基本テクニックの確認（応用）：苦手を克服するための練習曲に取り組む
- 第4回 楽曲の背景を知る：前期に取り組む曲の作曲家や時代について知る
- 第5回 読譜（基礎）：拍子、調性、形式を確認する・指使いを考える
- 第6回 読譜（応用）：使われているテクニックを確認し、練習計画を立てる
- 第7回 楽曲の理解（基礎）：和声を理解しフレーズを考える
- 第8回 楽曲の理解（応用）：アゴーギクなど演奏表現を考える
- 第9回 楽曲の理解（発展）：音楽表現を深める
- 第10回 テクニックの習得（基礎）：楽曲に使われているテクニックの練習法を学ぶ
- 第11回 テクニックの習得（応用）：楽曲演奏のために効果的な練習曲を併用する
- 第12回 テクニックの習得（発展）：難度の高い部分を音楽的に演奏する方法を探る
- 第13回 楽曲の演奏スタイルと解釈を考える
- 第14回 楽曲に相応しい表現を磨く
- 第15回 前期授業内小テスト：楽曲演奏／夏期休暇課題と後期学修計画の確認
- 第16回 夏期休暇課題成果発表と後期課題の確認：楽曲の作曲家や時代について知る
- 第17回 読譜：楽曲の形式を確認する・使われているテクニックから指使いを考え、練習計画を立てる
- 第18回 楽曲の理解：和声やフレーズを元に、アゴーギクなど演奏表現を考える
- 第19回 高度なテクニックの習得（基礎）：楽曲に使われている高度なテクニックの練習法を学ぶ
- 第20回 高度なテクニックの習得（応用）：高度なテクニックを音楽的に演奏する方法を探る
- 第21回 様々なアンサンブル／連弾・2台ピアノ・各自専攻（導入）：楽曲を理解し各自の役割を決める
- 第22回 様々なアンサンブル／連弾・2台ピアノ・各自専攻（基礎）：練習のポイントを確認する
- 第23回 様々なアンサンブル／連弾・2台ピアノ・各自専攻（応用）：音楽表現を深める
- 第24回 様々なアンサンブル／連弾・2台ピアノ・各自専攻（発展）：演奏スタイルと解釈を考える
- 第25回 様々なアンサンブル／連弾・2台ピアノ・各自専攻（まとめ）：楽曲に相応しい表現を磨く
- 第26回 後期試験曲のグループレッスン（基礎）：練習のポイントを確認する
- 第27回 後期試験曲のグループレッスン（応用）：音楽表現を深める
- 第28回 後期試験曲のグループレッスン（発展）：演奏スタイルと解釈を考える
- 第29回 後期試験曲のグループレッスン（まとめ）：楽曲に相応しい表現を磨く
- 第30回 後期試験曲のグループレッスン（まとめ）：楽曲に相応しい表現を磨く

履修上の注意

前期授業内小テスト1回、後期1回試験を行い、その素点を基に評価する。鍵盤楽器部会の指定する招聘教授による公開講座・レッスン・演奏会等を積極的に聴講すること

授業外学修の指示／課題に対するフィードバックの方法

十分な練習と準備をしてレッスンに望むこと。レッスンノートの記入を徹底し、やむを得ず欠席した場合はグループ内でレッスン内容の情報共有等を行うこと。

教科書・参考書

適宜資料等を配付する

2021年度(後期・通年)「学生による授業評価アンケート」結果に対する授業改善計画書

教員コード：3239 教員名：入江一雄

1) 評価結果に対する所見

良いアンケート結果に安堵しております。

2) 要望への対応・改善方策

自由記述欄には未記載でしたが、今後もより良い内容を学生に提示できるよういたします。

3) 今後の課題

- ・室内楽に接することで、音楽を分かち合う喜びと奥深さをより体感してもらえる工夫を続けてまいります。
- ・ソロ、室内楽、協奏曲などを別物と捉える学生が多いように感じるので、全ての共通項を学べるきっかけとなるような指導も続けてまいります。
- ・特に普段個人プレーに偏りやすいピアノの学生に対して上記の観点に気づき、ソロ演奏にも良い影響が出るよう促したいと考えております。

以 上